

「第9次北海道酪農・肉用牛生産近代化計画」に対する付帯意見（案）

北海道農業・農村振興審議会畜産部会 部会長 日向 貴久

- 1 道は、本計画を関係者共有の目標として、その趣旨や内容を広く周知するとともに、生産者はもとより関係機関・団体等においては、本計画の趣旨や内容を十分に理解し、道とも連携を図りながら、それぞれの役割と責任において、積極的な取組を進めること。
- 2 特に、本道酪農・肉用牛生産が、我が国への畜産物の安定供給及び本道地域経済・社会の活性化に重要な役割を果たしていることを踏まえ、その太宗を担う家族経営体の営農が持続可能なものとなるよう、道は、経営規模に応じた支援や、新規就農及び経営基盤継承などの取組を進めるとともに、本道の強みである飼料生産基盤をフル活用でき、温室効果ガスの削減効果も期待できる放牧酪農について、一層の推進を図ること。
- 3 本道酪農・肉用牛生産の更なる発展に向けては、需要の創出が不可欠であることから、国内での消費拡大をはじめ、輸出の促進やインバウンドへの訴求による国外需要の拡大に努めるなど、生産者、関係機関・団体、製造事業者、販売事業者及び行政など、関係者一丸となって需要創出に取り組むこと。
- 4 持続的な酪農・肉用牛経営のためには、畜産物が再生産可能な合理的な価格で取引されることが重要であり、合理的な価格を形成するためには、消費者の理解が不可欠であることから、生産者及び生産団体は、自らの生産に必要なコストを客観的に示せるよう把握することとし、道は、この取組を支援すること。
- 5 道は、本計画に定めた取組の着実な実施と目標の達成に向けて、その推進状況や関係者による取組状況を把握するなど、進行管理を行い、その過程で明らかとなった課題や、経済・社会情勢の変化等を踏まえ、取組の必要な見直しや改善を行うこと。